

第2章

まちづくりの課題



町の木：いちよう

第2章 まちづくりの課題

1.土地利用の課題

(1) 土地利用の現況と問題点

七戸町の土地利用の現況とその問題点をとおして、土地利用について整理すると以下のようになります。

【土地利用の現況・問題点】

- 七戸町の西側には山地があり、山麓から町の中央部にかけては牧場や畑が、東側の平坦部や河川沿いには水田が広がっており、七戸町全体が豊かな自然環境を有しています。
- 市街地は七戸町を南北に走る国道4号及び都市計画道路3・5・5大沢倉越館野線沿いに形成されており、自然に囲まれた環境になっています。
- 七戸地区には都市計画区域が指定されていますが、天間林地区には都市計画区域の指定がありません。
- 七戸十和田駅周辺は土地区画整理事業により、新しい市街地が整備されました。

七戸町の西側は八甲田連峰がそびえ、大半が山林となっています。山麓から町の中央部にかけては牧場や畑が広がっています。また、東側の平坦部や河川沿いには水田が広がっており、七戸町全体が豊かな自然環境を有しています。

市街地は七戸町の中心からやや東側を南北に走る国道4号及び都市計画道路3・5・5大沢倉越館野線沿いに形成されており、豊かな自然や重要な産業基盤である農地に囲まれた市街地環境になっています。

都市計画区域は、七戸地区の一部に「七戸都市計画区域」が指定されていますが、天間林地区には都市計画区域が指定されていないため、今後まちづくりを進めていくうえで土地利用の規制・誘導等に関し、七戸地区と異なる状況にあります。

現在、七戸十和田駅周辺は土地区画整理事業が完了し、新しい市街地が整備され、用途地域及び地区計画が設定されています。

（２）土地利用に対する住民の意向

アンケート調査の回答を通して、土地利用について住民の意向を整理すると以下のようになります。

【土地利用に対する住民の意向】

- ・ 「自然・緑の豊かさ、美しさ」や「水辺の豊かさ、美しさ」に対する満足度が最も高くなっています。
- ・ 七戸町の誇れるものとして「自然環境、景観、歴史・文化」という意見が多く出ています。
- ・ 土地利用などのルールを定めたほうが良いという意見が多く出ています。
- ・ 公共施設の配置について、役場周辺や七戸十和田駅周辺に集約したほうが良いという意見が多く出ています。

アンケート調査の回答では、豊かな自然環境や美しい景観、歴史・文化が誇れるという意見が多くなっています。

アンケート調査の回答では、生活環境や街並みを良くするため、土地利用及び建物の用途等にルールを定めたほうが良いという回答が多くなっています。

アンケート調査の回答では、公共施設の配置については、町内に分散させるよりも、役場周辺や七戸十和田駅付周辺に集約したほうが良いという意見が多くなっています。

（３）土地利用の課題

土地利用の現況とその問題点、住民の意向を通して、土地利用の課題について整理すると以下ようになります。

【土地利用の課題】

自然と調和し、七戸町の発展を目指した計画的な土地利用の推進が必要

- ・ 豊かな自然や重要な産業基盤である農地を維持・保全し、「自然と調和したまち」とするため、計画的な土地利用の誘導が必要です。
- ・ 七戸町として「一体的なまちづくり」を実現させるため、土地利用のルールについて、検討が必要です。
- ・ 役場周辺とともに七戸十和田駅周辺を新たなまちづくりの核と位置づけ、関係人口の増加を見込んだ「土地利用の適正な配置・誘導」が必要です。
- ・ 「主要幹線道路沿道と市街地との連携・調和」を図る土地利用の規制・誘導が必要です。

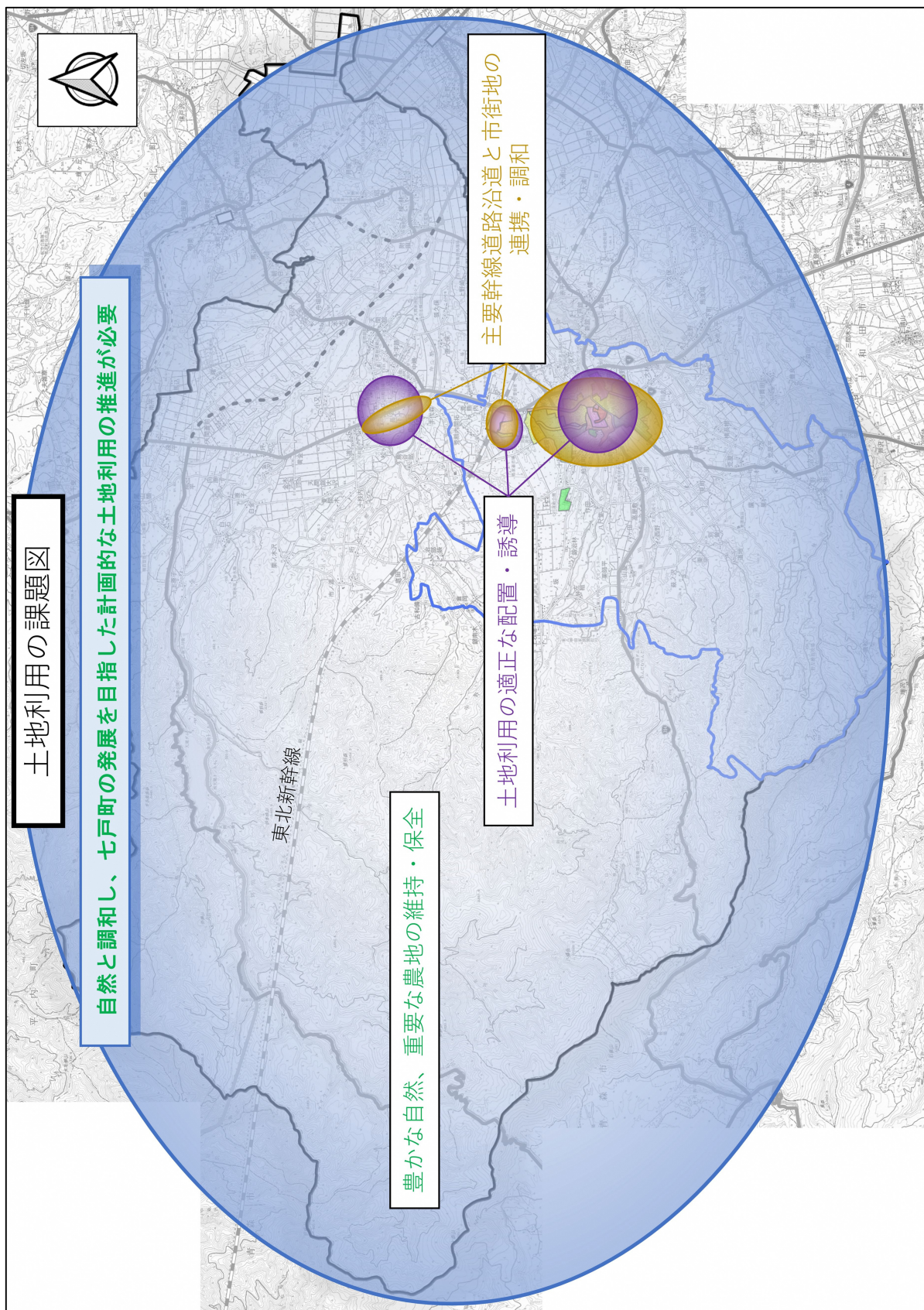


図 2-1-1 土地利用の課題図

2.都市構造の課題

(1) 都市構造の現況と問題点

七戸町の都市構造の現況とその問題点を通して、都市構造について整理すると以下のようになります。

【都市構造の現況・問題点】

- ・ 市街地は、七戸地区と天間林地区の既成市街地と、七戸十和田駅周辺に整備された新市街地があります。
- ・ 古くから城下町として栄えた商業地のにぎわいに陰りが見られます。
- ・ 鉄道網では七戸十和田駅、道路網では国道4号を大動脈とし、国道394号、上北自動車道、みちのく有料道路、その他の県道が連結して交通網を形成しています。さらに、国道394号榎林バイパス、上北自動車道（天間林道路）が整備中、下北半島縦貫道路の整備が予定されており、交通の要衝として位置づけられています。
- ・ 都市計画道路は、計画されたすべての道路が整備されています。

現在七戸町には、七戸地区と天間林地区の既成市街地と七戸十和田駅周辺の新市街地の計3ヶ所の市街地が存在しています。

七戸地区の既成市街地には、古くから城下町として栄えた商業地がありますが、現在ではそのにぎわいに陰りが見られています。

上北自動車道等の開通・延伸による新たな交通需要の発生、それに伴う交通量の増加が予想されます。また、七戸十和田駅では、駅利用者の増加により、連休等は駐車場が不足しています。

(2) 都市構造に対する住民の意向

アンケート調査の回答を通して、都市構造について住民の意向を整理すると以下のようになります。

【都市構造に対する住民の意向】

- ・ 幹線道路沿いや七戸十和田駅周辺に新たに大規模店舗等の出店を誘致するという意見が多く出ています。
- ・ 今後のまちづくりに望むものとして、商業環境の整備という意見が多く出ています。また、積極的に企業を誘致して、町内に働く場所を増やすという意見が多く出ています。

アンケート調査の回答では、「幹線道路沿いや七戸十和田駅周辺に新たに大規模店舗等の出店を誘致する」という意見が多く出ています。

また、企業誘致を行い、働く場所を増やして若者の雇用を確保するとともに、町内への定住を図り人口を確保すべきという意見も多く出ています。

3.都市環境の課題

(1) 都市環境の現況と問題点

七戸町の都市環境の現況とその問題点を通して、都市構造について整理すると以下のようになります。

【都市環境の現況・問題点】

- ・ 公共交通として、路線バス及びコミュニティバスがあり、町内を巡行しています。
- ・ 都市計画公園、緑地、農村公園等は23箇所整備されていますが、子供の遊びの場となる身近な小公園や広場は少ない状況です。
- ・ 公共下水道は未だ整備されていない所も見られます。
- ・ 既成市街地の道路が狭く、歩道や街灯が整備されていないところも多く見られます。

公共交通としては十和田観光電鉄バス、七戸町コミュニティバスがあります。しかし、十和田観光電鉄バスは十和田市や東北町、野辺地町を結ぶ都市間連絡バスであり幹線道路沿いに偏ったバス路線となっています。一方、七戸町コミュニティバスは路線バスの無い七戸町内の各集落と各市街地を連絡しており、各路線の運行回数は週に3日となっています。全体的には、公共交通の利便性が高いとはいえない状況にあります。

都市計画公園・緑地、その他の公園は23箇所整備されていますが、既成市街地内の街区公園は2箇所と少なく、子供の遊びの場となる身近な小公園や広場が少ない状況です。

七戸地区の既成市街地には、古い城下町としての街並みを残しているため、幅員が狭く、歩道や街灯が整備されていない道路が見られます。

(2) 都市環境に対する住民の意向

アンケート調査の回答を通して、都市環境について住民の意向を整理すると以下のようになります。

【都市環境に対する住民の意向】

- ・ バスなどの利便性向上を望む意見が多くなっています。
- ・ 子供の遊び場を望む意見と同時に、現在ある公園等の維持・管理や機能の充実を求める意見が上がっています。
- ・ 道路状況の改善を望む意見が多くなっています。

アンケート調査の回答では、今後のまちづくりについて「バスや鉄道などの利便性の向上」「道路の整備」「子供の遊び場の整備」「公園設備の充実や改善」を望む意見が多くなっています。

(3) 都市環境の課題

都市環境の現況とその問題点、住民の意向を通して、都市環境の課題について整理すると以下ようになります。

【都市環境の課題】

「住みたくなるまち」を目指した都市施設の整備・充実が必要

- ・ 少子高齢社会に対応する、公共交通の利便性の向上を図ることが必要です。
- ・ 現在整備されている公園等の機能の拡充や、適正な管理運営が必要です。
- ・ 未使用の施設や土地など、貴重な資源として見直し、有効活用することが必要です。
- ・ 公共下水道の計画的な整備推進が必要です。
- ・ 住民が望む安全・安心な「住みたくなるまち」を目指し、道路状況の改善など住環境の計画的な整備が必要です。

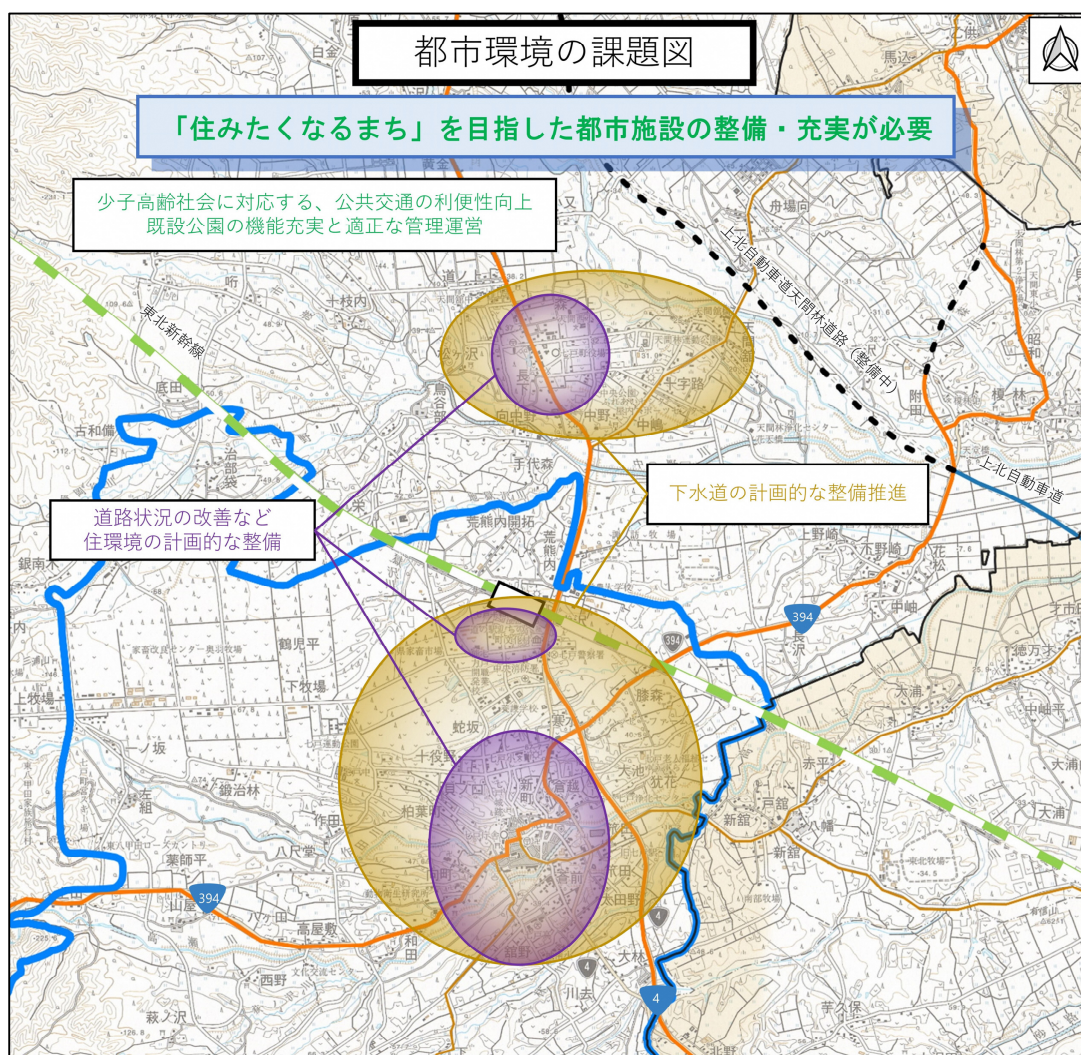


図 2-3-1 都市環境の課題図

4.個性を活かすまちづくりの課題

(1) 個性を活かすまちづくりの現況と問題点

七戸町の特長とその問題点を通して、個性を活かすまちづくりについて整理すると以下のようになります。

【個性を活かすまちづくりの現況・問題点】

- ・ 著しい人口の減少や少子高齢化が見られます。
- ・ 基幹産業の活性化を目指し、地産地消文化を推進するため多くのプロジェクトが進められています。
- ・ 工業製造品出荷額、商業年間販売額ともに、近年は横ばいで推移しています。
- ・ 観光入り込み客数は近年大きな増減はありませんが、微減傾向にあります。
- ・ 七戸町全域に、自然、文化財、温泉、まつりや伝統芸能などの観光交流資源が分布しています。

著しい人口減少が見られ、特に年少人口や生産人口の減少と、高齢人口の増加が顕在化しています。

地域特産品のブランド化、食による七戸町のイメージアップを図るため、多くのプロジェクトに取り組み、基幹産業である一次産業の活性化に努め、地産地消文化を推進しています。

工業は事業所数・従業者数が減少していますが、工業製造品出荷額は横ばいで推移し、商業は事業所数・従業者数が増加していますが、商業年間販売額は横ばいで推移しています。

観光入り込み客数は平成2年の約24万人から平成30年の約83万人と大幅に増加しています。最近10年では大きな増減はありませんが微減傾向にあります。

豊かな自然や美しい景観、数多くの文化財、温泉施設、地域特有のまつりや伝統芸能などの観光交流資源が七戸町全域に見られます。

(2) 七戸町の個性に関する住民の意向

アンケート調査の回答を通して、七戸町の特長について住民の意向を整理すると以下のようになります。

【都市構造に対する住民の意向】

- ・ 多くの人が、まちに愛着を感じ、住み続けたいと思っています。
- ・ 多くの人が、就業機会が充実することを望んでいます。
- ・ 各地域のまつり、神社仏閣などの歴史的建造物、自然的景観を誇りに思うという意見が多くなっています。
- ・ 5割以上の人々が、まちづくりに参加したいと思っています。

アンケート調査の回答では、7割以上の人が「今住んでいるところにずっと、または、当分の間住み続けたい」という意見で、その理由は「長年住み慣れていて愛着がある」が最も多くなっています。

アンケート調査の回答では、5割以上の人が「企業を誘致して、町内に働く場所を増やす」ことを望んでいます。

アンケート調査の回答では、七戸町の誇れる風景や建物などとして、八甲田連峰や八幡岳の眺望、神社仏閣などの歴史的建造物、天王つつじまつりやしちのへ秋まつりなど各地で行われるまつり、道の駅しちのへや七戸十和田駅という意見が多く見られます。

アンケート調査の回答では、5割以上の人がまちづくりに参加したいと答えており、まちづくりへの参加意向を持つ人が多い結果となっています。

(3) 個性を活かすまちづくりの課題

七戸町の特長とその問題点、住民の意向を通して、個性を活かすまちづくりの課題について整理すると以下ようになります。

【個性を活かすまちづくりの課題】

住民とともに、持続可能なまちを育てていくことが必要

- ・ 少子高齢社会に対応する、子育ての充実や高齢者が生きがいを持てる環境づくりが必要です。
- ・ 定住意向の強さを活かし、地域の連携強化を図るとともに、協力しながら地域づくりをするコミュニティ形成が必要です。
- ・ 企業誘致と、基幹産業の活性化を図ることで、活力のある持続可能なまちづくりが必要です。
- ・ 七戸町全域に分布する観光交流資源の有効活用と情報発信を推進するとともに、広域的な観光資源との連携を強化し、交流人口の確保を図ることが重要です。
- ・ 市街地に潤いとやすらぎを与え、安全な水道水の源でもある河川の維持・保全が必要です。
- ・ 住民参加のまちづくりを行うことで、住民とともに町を育てていくことが重要です。

5. アンケート調査概要

(1) 調査の目的

住民意向の都市計画マスタープランや立地適正化計画の作成に向けて、現状の評価と今後のまちづくりについての考え方や意見を収集把握することを目的としています。

【質問項目の概要】

- (1) 回答者属性
- (2) 七戸町の現状について
- (3) 今後のまちづくりについて
- (4) 七戸町の「誇れる風景や文化」について
- (5) 「まちづくり」への参加意向について

(2) 調査対象者及び抽出方法

アンケート調査は、七戸町内に居住する 18 歳以上の住民を無作為に抽出して実施しました。

表 2-5-1 アンケート対象者と抽出方法

対象者	抽出方法	配布数
七戸町に居住する 18 歳以上の住民	無作為抽出	1,300 票

(3) 調査方法及び実施期間

調査方法及び実施期間は次の通りです。

表 2-5-2 調査方法及び実施期間

調査方法	実施期間
郵送配布・郵送回収	令和元年 11 月 1 日～11 月 15 日

(4) 配布回収結果

本調査における配布回収状況については、アンケートの配布が 1,300 票に対し回収が 431 票となり、回収率は 33.2%となっています。

表 2-5-3 配布回収状況

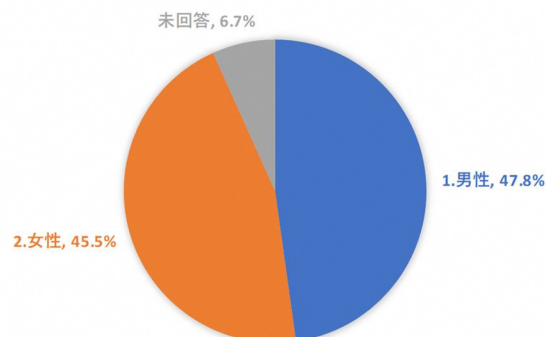
配布数	回収数	回収率
1,300	431	33.2%

6. アンケート調査結果

(1) 回答者属性

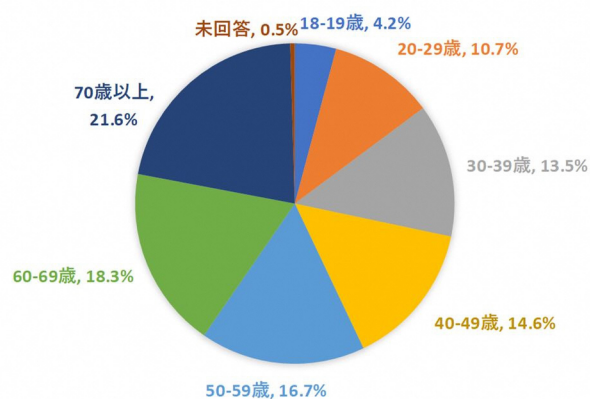
①性別

男女の割合は、「1.男性」47.8%、「2.女性」45.5%とほぼ同数となっています。



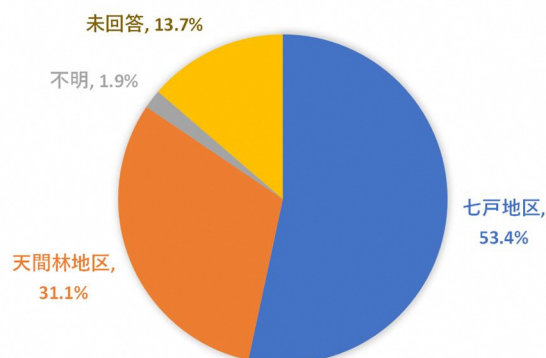
②年齢

年代は、「70歳以上」(21.6%)が一番多く、次いで「60～69歳」(18.3%)、「50～59歳」(16.7%)となっております。



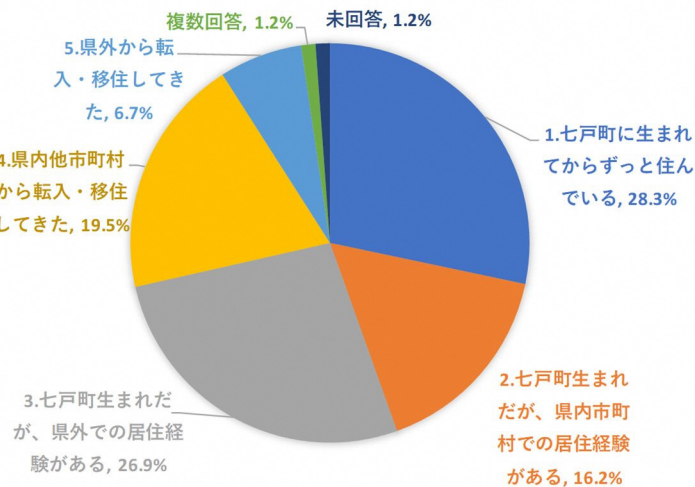
③地区

地区別でみると、「七戸地区」が53.4%、「天間林地区」が31.1%となっています。



④居住歴

居住歴は、「1.七戸町に生まれてからずっと住んでいる」(28.3%)が最も多く、次いで「3.七戸生まれだが、県外での居住経験がある」(26.9%)となっています。



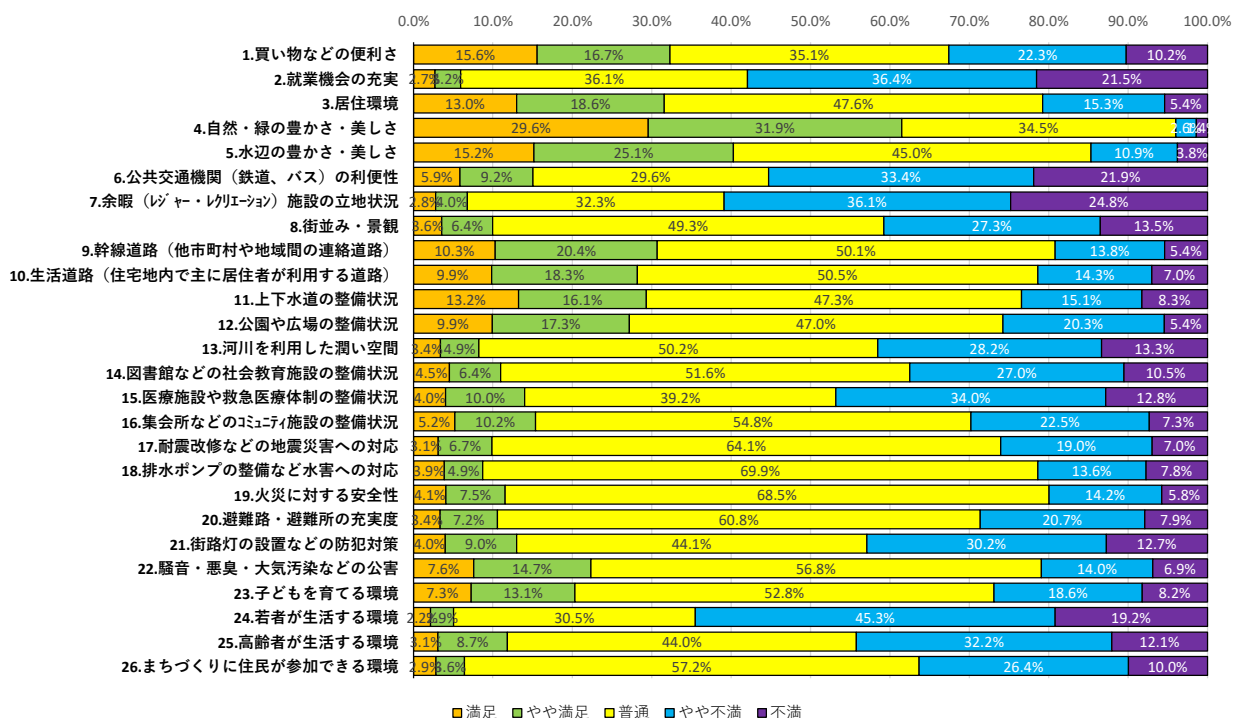
(2) 七戸町の状況について

①七戸町の各環境についての満足状況（各項目について単一回答）

七戸町の26項目の環境について満足～不満の5段階で評価していただきました。

「満足」と「やや満足」の割合が高い項目として、「4.自然・緑の豊かさ・美しさ」(61.5%)がありました。

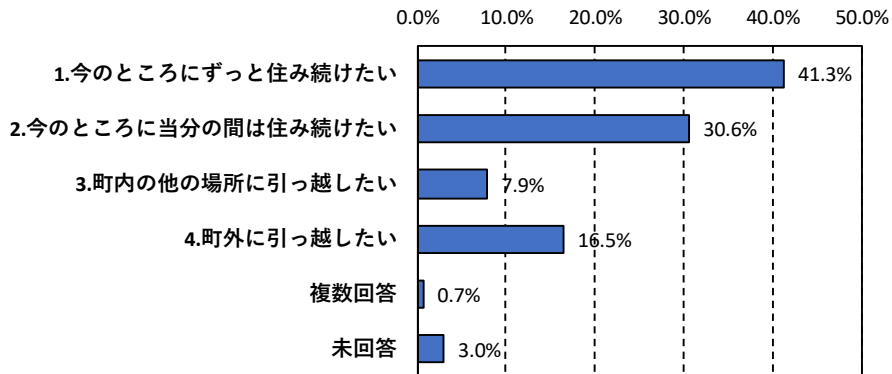
「不満」と「やや不満」の割合が高い項目として「24.若者が生活する環境」(64.5%)「7.余暇施設（レジャー・レクリエーション）施設の立地状況」(60.9%)、「2.就業機会の充実」(57.9%)、「6.公共交通機関の利便性」(55.3%)がありました。



※有効回答数で割合算出

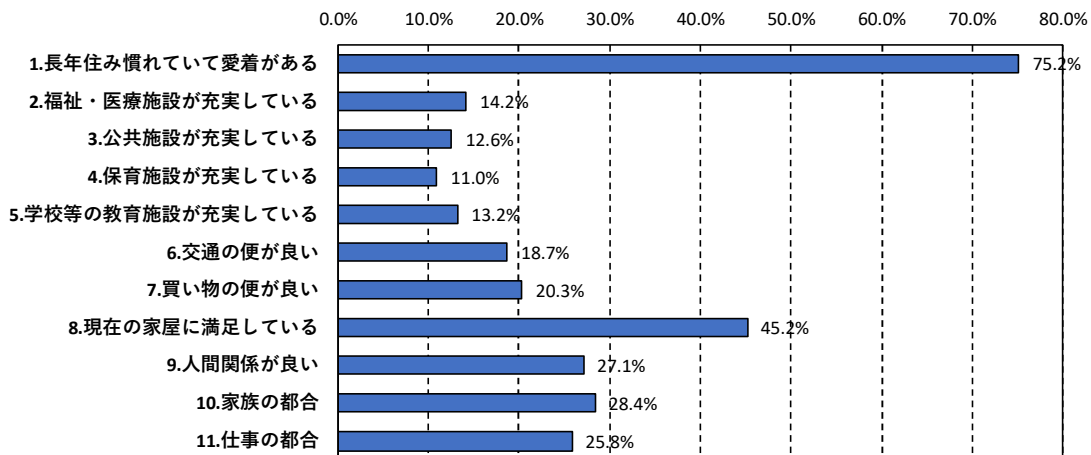
②今後の定住希望（単一回答）

今後の定住希望については、「1.今のところにずっと住み続けたい」（41.3%）が最も多く、次いで「2.今のところに当分の間は住み続けたい」（30.6%）となっています。



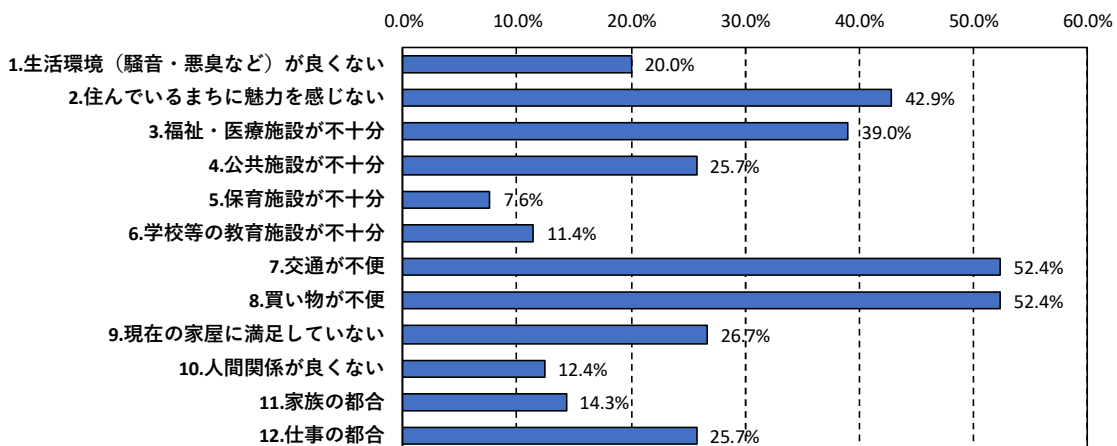
③定住希望の理由（複数回答）

②今後の定住希望の設問で 1.もしくは 2.と回答された方に、定住希望の理由を問うと、「1.長年住み慣れていて愛着がある」（75.2%）が最も多く、次いで「8.現在の家屋に満足している」（45.2%）となっています。



④引っ越し希望の理由（複数回答）

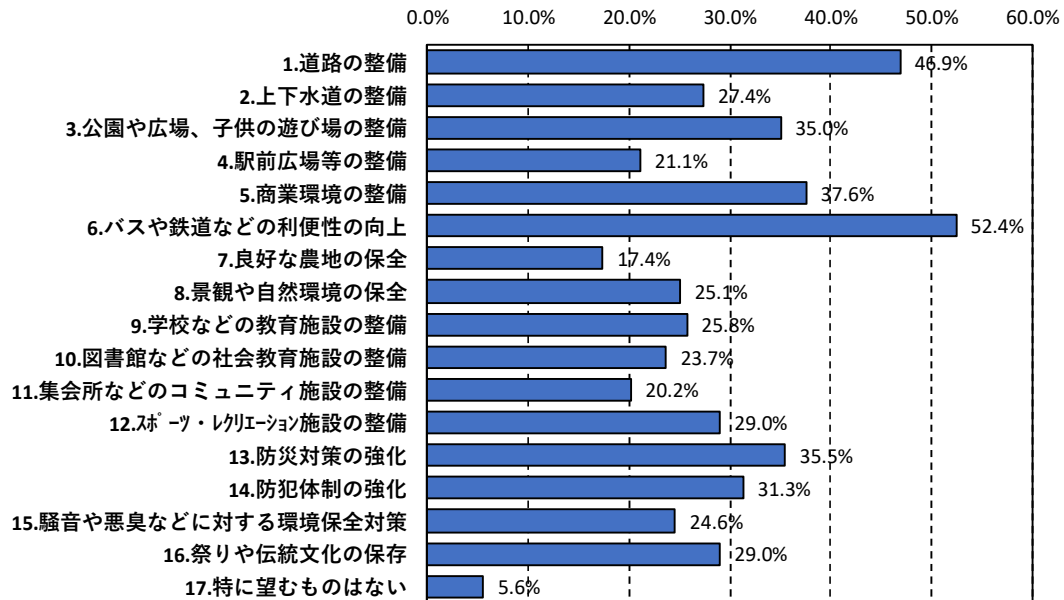
②今後の定住希望の設問で 3.もしくは 4.と回答された方に、引っ越し希望の理由を問うと、「7.交通が不便」と「8.買い物が不便」（52.4%）が最も多く、次いで「2.住んでいるまちに魅力を感じない」（42.9%）となっています。



(3) 今後のまちづくりについて

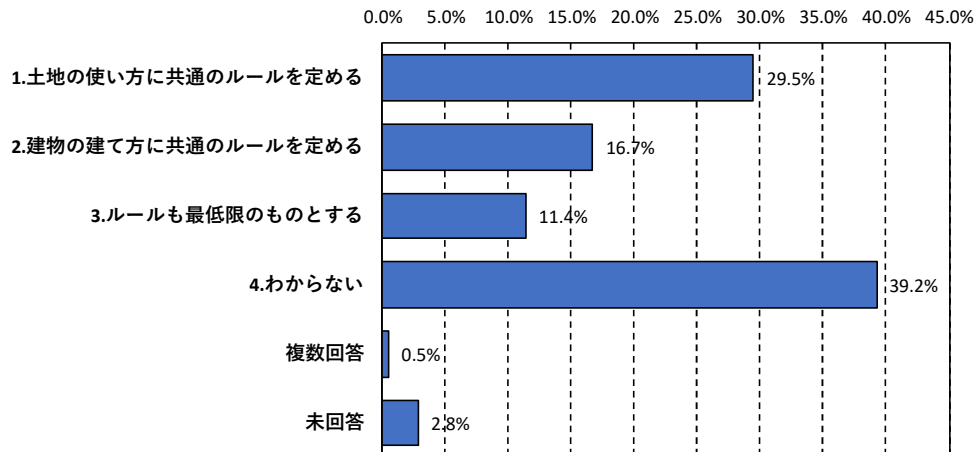
① 住みよいまちづくりのために望むこと（複数回答）

住みよいまちづくりのために望むこととしては、「6.バスや鉄道などの利便性の向上」（52.4%）が最も多く、次いで「1.道路の整備」（46.9%）、「5.商業環境の整備」（37.6%）となっています。



② 建物の建て方や土地利用のルールについて（単一回答）

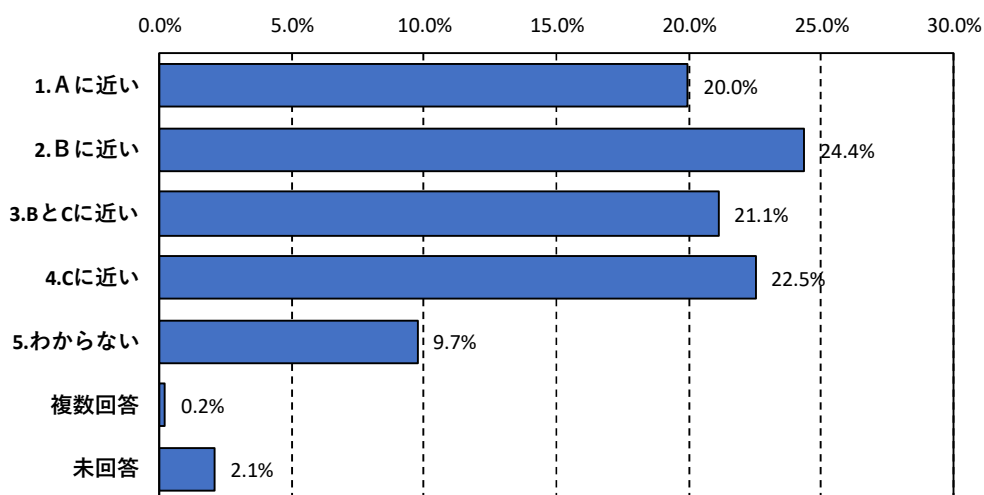
建物の建て方や土地利用のルールについては、一番多いのが「4.わからない」（39.2%）であり、次いで「1.土地の使い方に共通のルールを定める」（29.5%）となっています。



③公共施設の配置について（単一回答）

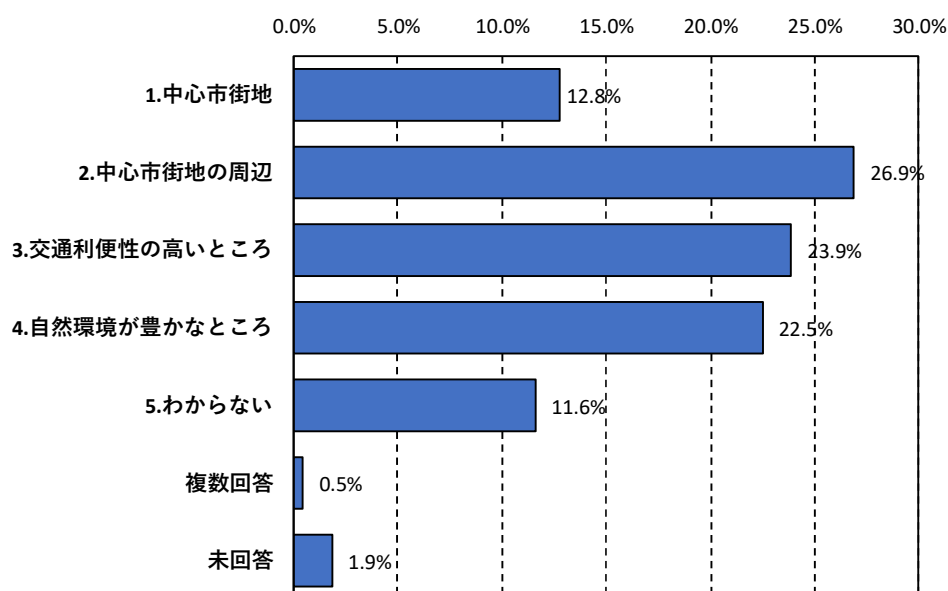
公共施設の配置については、以下 A、B、C の選択肢で、考えが近いものを問うと、「2.Bに近い」（24.4%）が最も多く、続いて「4.Cに近い」（22.5%）、「3.BとCに近い」（21.1%）、「1.Aに近い」（20.0%）となっています。町内に分散より、役場周辺や駅周辺に集積したほうが良いとの回答が多くなっています。

A：日常の利便性を考慮して、町内に分散させたほうが良い。
 B：効率性を高めるため、役場周辺（本庁舎または七戸支所）に集約したほうが良い。
 C：交通利便性の高い、七戸十和田駅周辺などに集約したほうが良い。



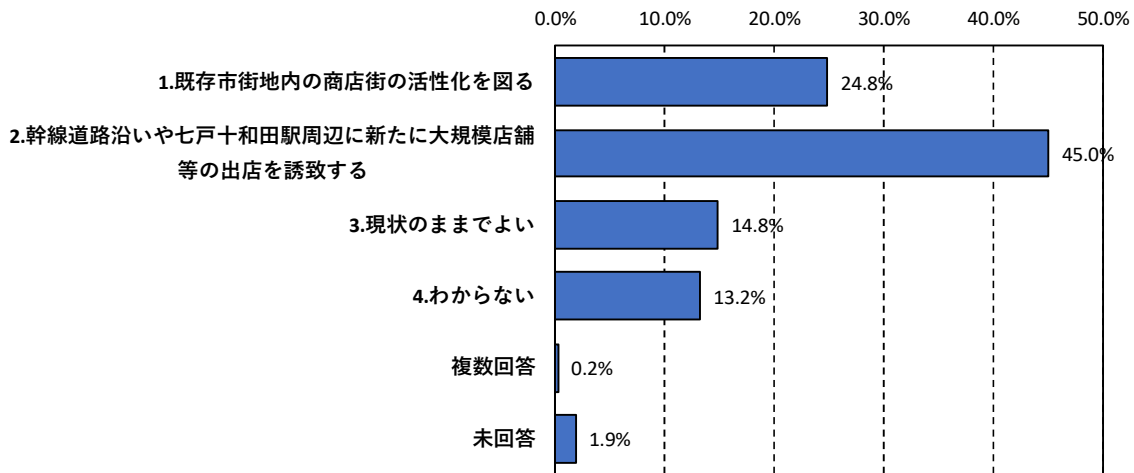
④生活したいと思う場所について（単一回答）

生活したいと思う場所については、「2.中心市街地の周辺」（26.9%）が最も多く、次いで「3.交通利便性の高いところ」（23.9%）となっています。



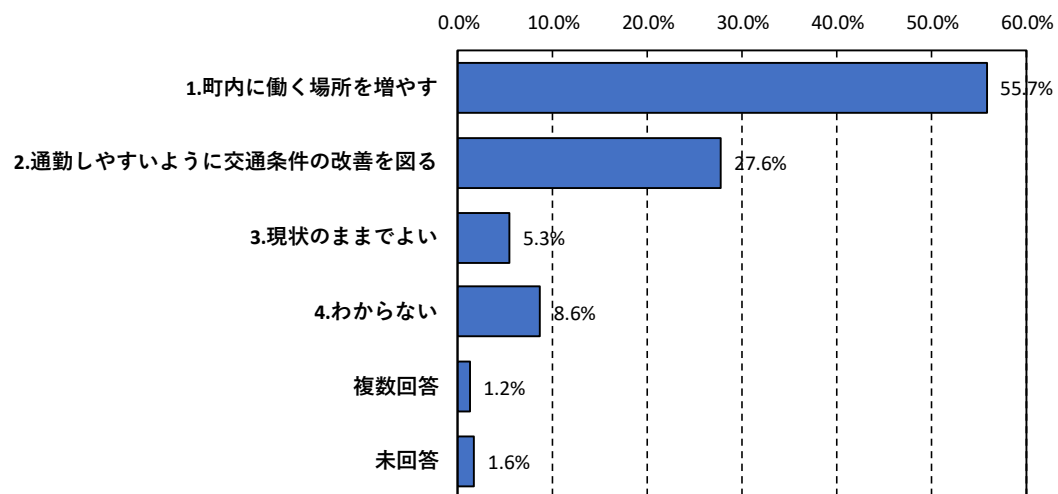
⑤商業店舗の出店の在り方について（単一回答）

商業店舗の出店の在り方について望むことは、「2.幹線道路沿いや七戸十和田駅周辺に新たに大規模店舗等の出店を誘致する」（45.0%）が最も多く、次いで「1.既存市街地内の商店街の活性化を図る」（24.8%）となっています。



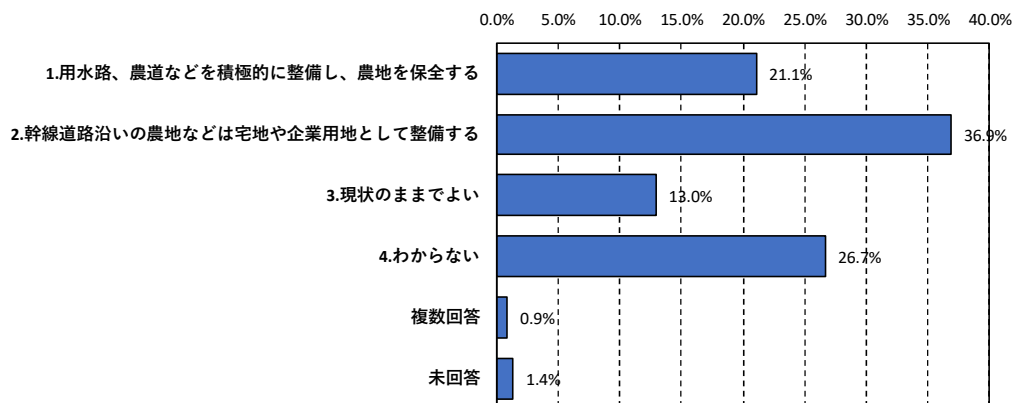
⑥企業誘致について（単一回答）

企業誘致についての考え方では、「1.町内に働く場所を増やす」（55.7%）が最も多く、続いて「2.通勤しやすいように交通条件の改善を図る」（27.6%）となっています。



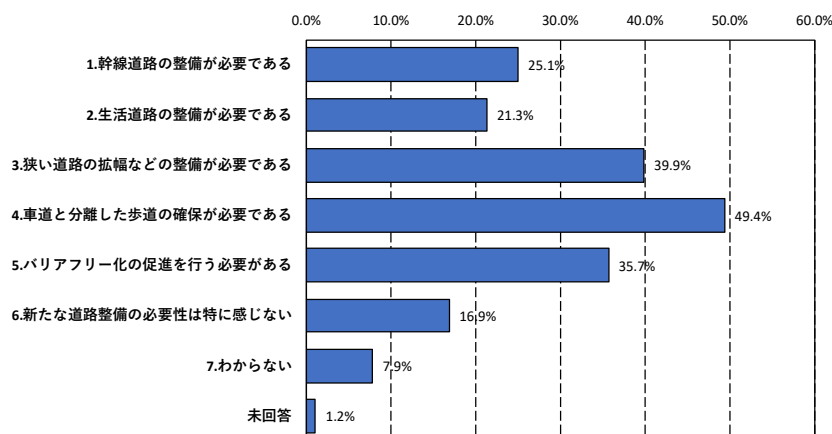
⑦今後の農地の利用について（単一回答）

今後の農地の利用については、「2.幹線道路沿いの農地などは宅地や企業用地として整備する」（36.9%）が最も多く、次いで「4.わからない」（26.7%）となっています。



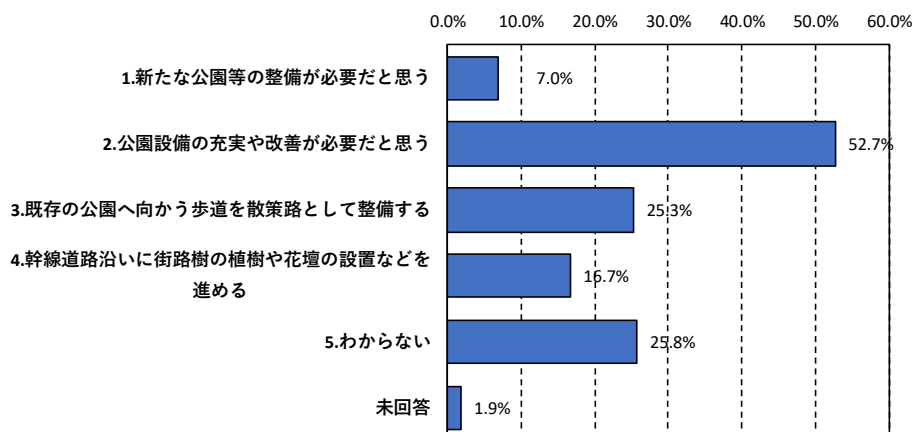
⑧今後の道路整備の取り組みについて重要だと思うこと（複数回答）

今後の道路整備の取り組みについては、「4.車道と分離した歩道の確保が必要である」（49.4%）が最も多く、次いで「3.狭い道路の拡幅などの整備が必要である」（39.9%）となっています。



⑨公園や緑地、緑化の取り組みについて重要と思うこと（複数回答）

公園や緑地、緑化の取り組みについては、「2.公園設備の充実や改善が必要だと思う」（52.7%）が最も多く、次いで「3.既存の公園や緑地へ向かう歩道を散策路として整備する」（25.8%）となっています。

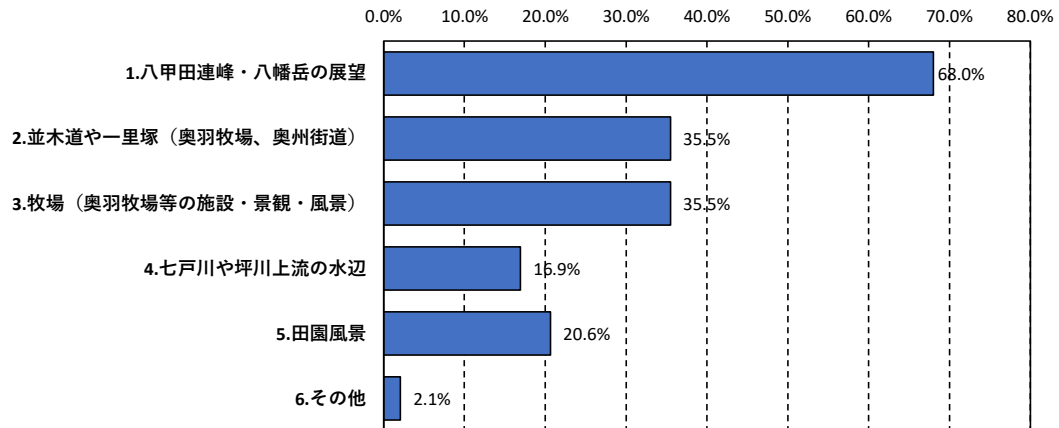


(4) 七戸町の「誇れる風景や文化」について（各項目複数回答）

七戸町の誇れる風景、文化財、まつり・イベント、観光・レジャー施設等についてそれぞれ4項目に分けて回答を頂きました。

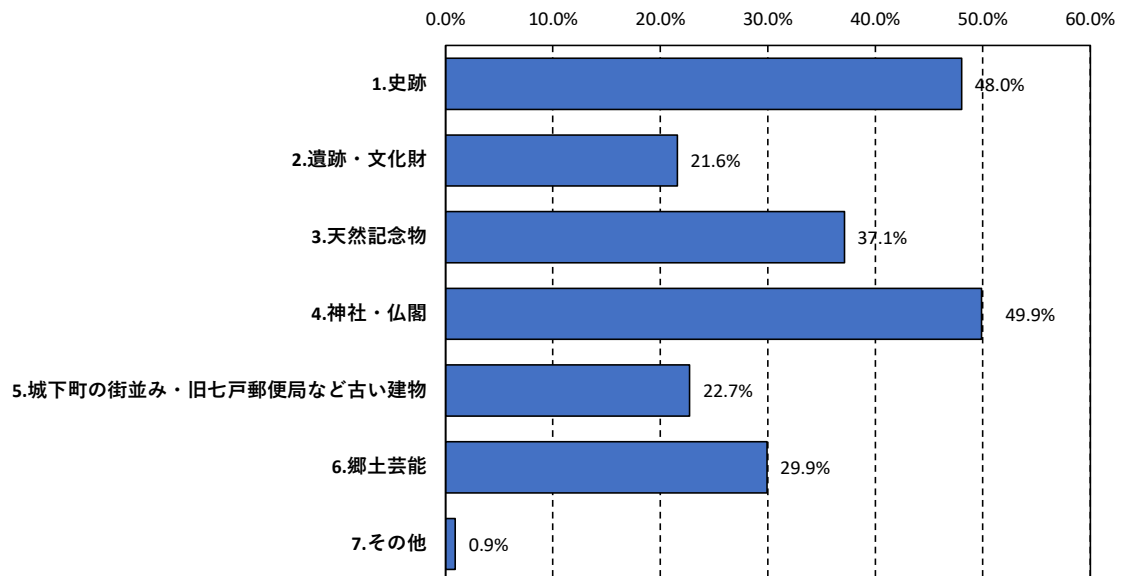
A 風景

「1.八甲田連峰・八幡岳の展望」(68.0%) が最も多く、次いで「2.並木道や一里塚」(35.5%)、「3.牧場」(35.5%) となっています。



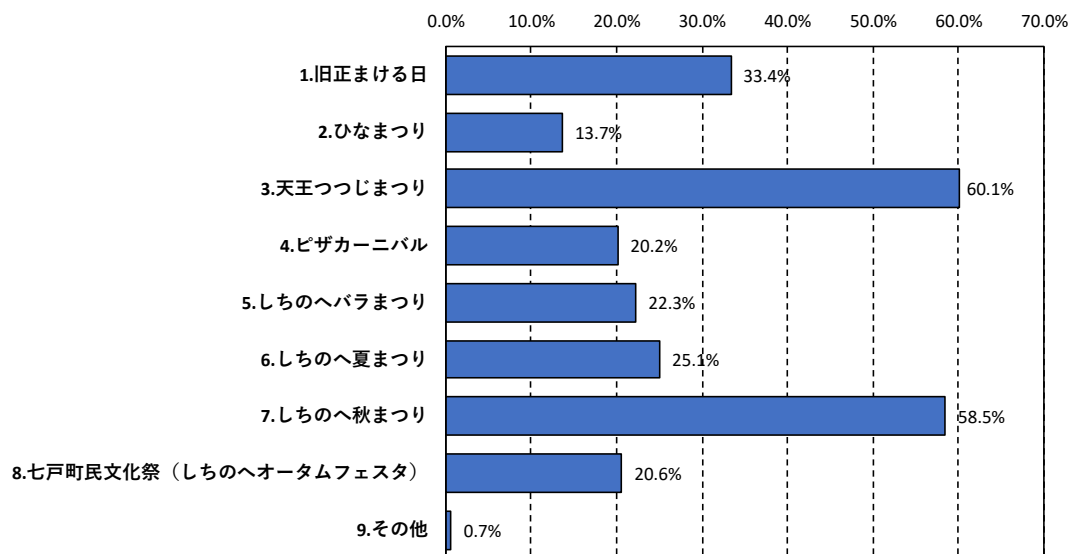
B 文化財

「4.神社・仏閣」(49.9%) が最も多く、次いで「1.史跡」(48.0%)、「3.天然記念物」(37.1%) となっています。



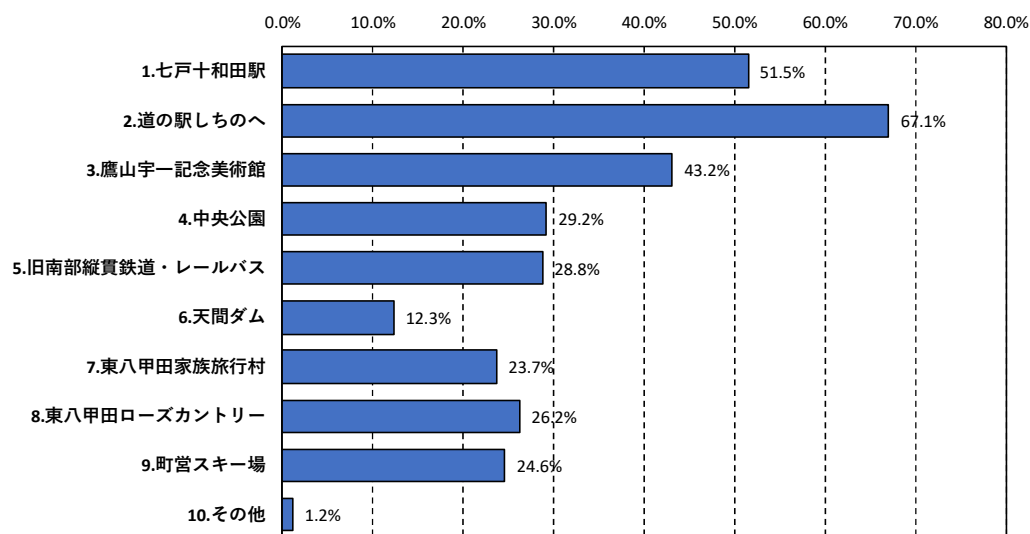
C まつり・イベント

「3.天王つつじまつり」(60.1%) が最も多く、次いで「7.しちのへ秋まつり」(58.5%) となっています。



D 観光・レジャー施設等

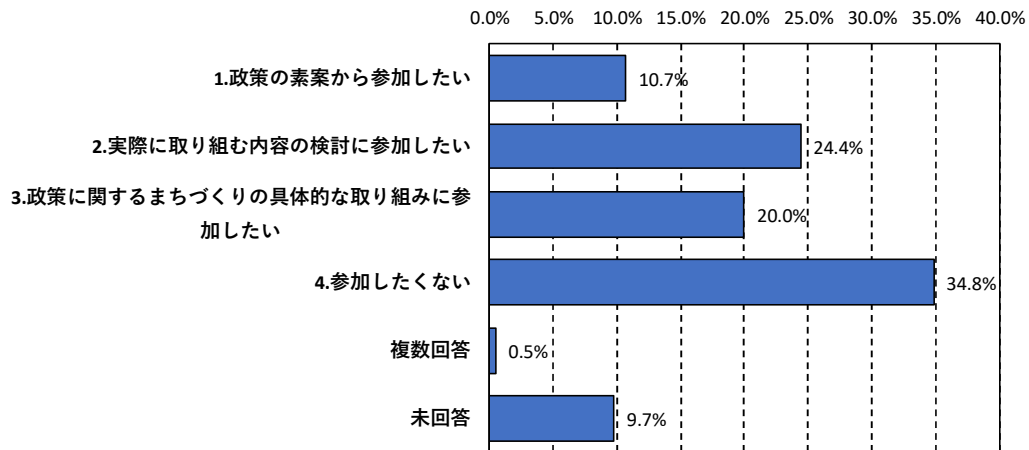
「2.道の駅しちのへ」(67.1%) が最も多く、次いで「1.七戸十和田駅」(51.5%)、「3.鷹山宇一記念美術館」(43.2%) となっています。



(5) 「まちづくり」への住民参加について（単一回答）

「まちづくり」への参加意向については、参加したいと考えている人が55.0%と「4.参加したくない」と回答した34.8%より上回っています。

参加の段階としては、「2.実際に取り組む内容の検討に参加したい」（24.4%）、「3.政策に関するまちづくりの具体的な取り組みに参加したい」（20.0%）、「1.政策の素案から参加したい」（10.7%）となっています。



(以下余白)